

令和 6 年度 民芸館・本多記念民芸の森 実績報告 (4～12 月)

1 入館者・施設利用者数

【民芸館】

令和 6 年度 (12 月末時点)

* [] は令和 5 年度同時期実績

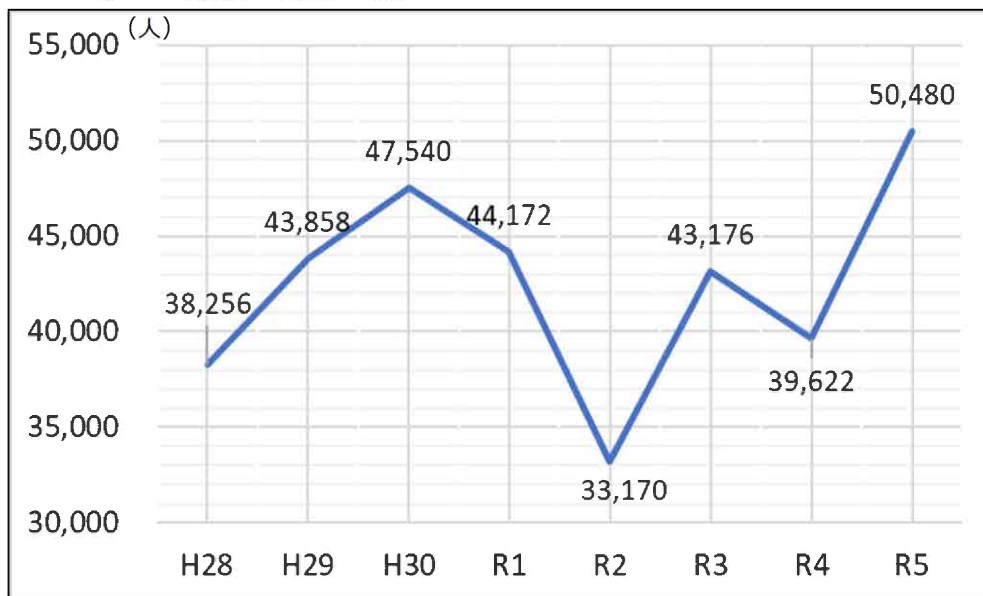
展覧会等総施設利用者数：40,468 人	[30,436 人]
----------------------	------------

茶室及び講座受講者数：4,862 人	[4,592 人]
--------------------	-----------

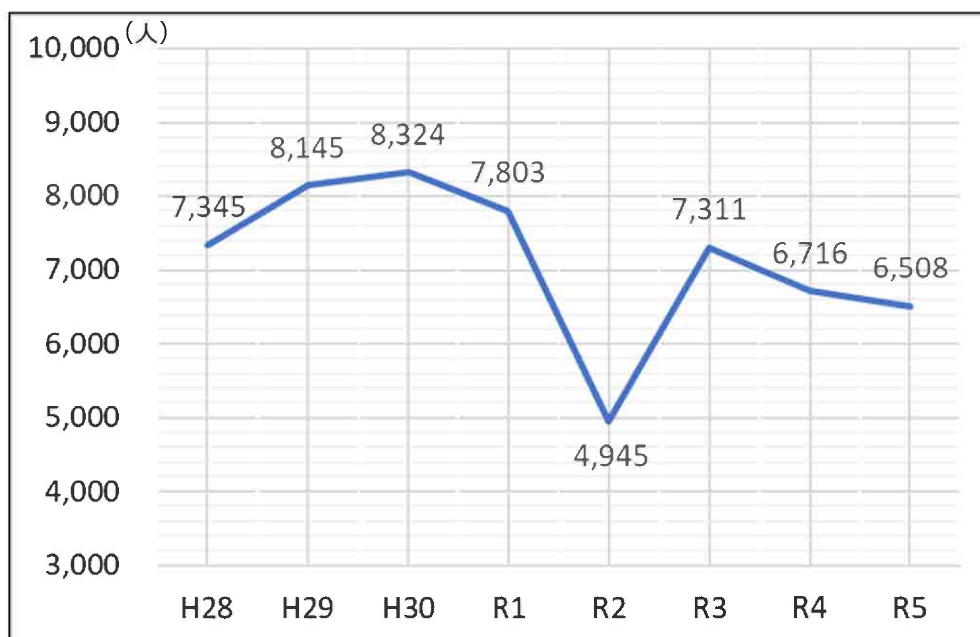
施設総利用者数：45,330 人	[35,171 人]
------------------	------------

過去 8 年間の推移

(1) 展覧会等施設利用者数



(2) 茶室及び講座受講者数



【本多記念民芸の森】

令和 6 年度（12 月末時点）

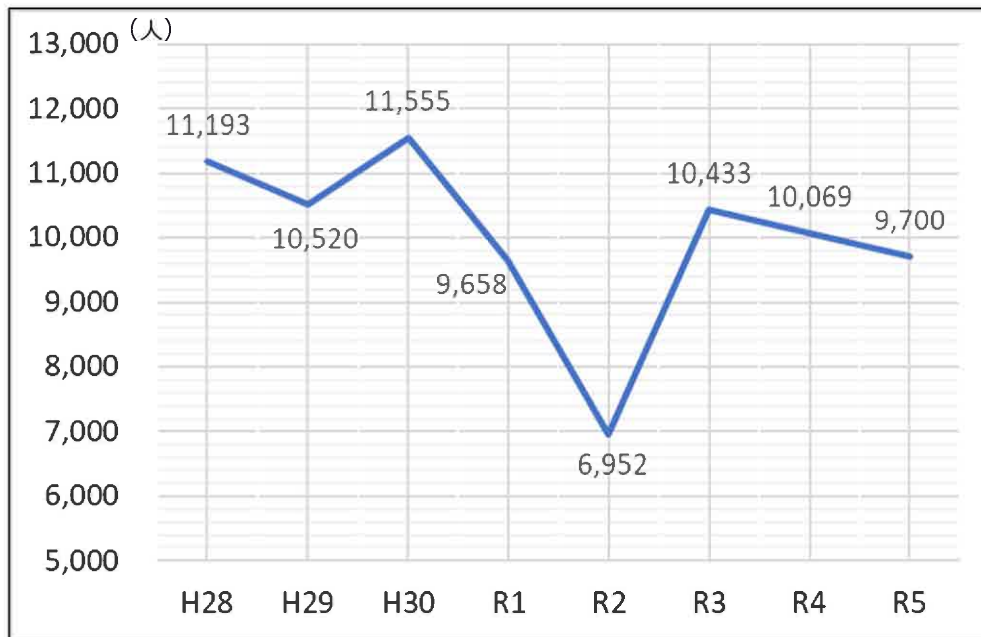
*〔 〕は令和 5 年度同時期実績

施設内建物等利用者数：8,291 人〔7,764 人〕

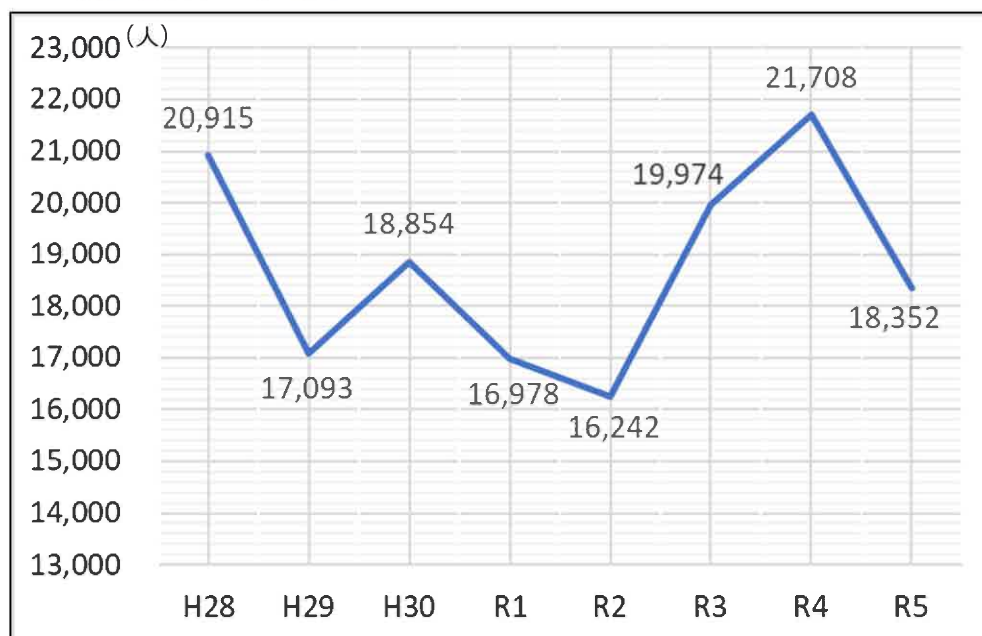
施設敷地入場者数：14,218 人〔13,918 人〕

過去 8 年間の推移

（1）建物等利用者数



（2）施設敷地入場者数



2 展覧会事業

【民芸館】

第 106 回 企画展

「美しき手仕事－新収蔵品を中心に－」展

令和 6 年 4 月 9 日（火）～令和 6 年 6 月 30 日（日）

74 日間（会場：第 1、第 2 民芸館）

観覧者数 2,850 人（1 日平均 39 人）

【展示概要】

「美しき手仕事」をテーマに、近年収集した手工芸品や寄贈を受けた資料を中心に紹介した。

第一民芸館では、日本民藝館展（年に一度開かれる全国公募の新作工芸品展）の優品、絞り染めなどの染織品、手漉き和紙やざげち（切り紙）などを展示。第二民芸館では、故高松静男氏が収集したアイヌの工芸品や瀬戸の石皿、そば猪口など、300 点を超える資料の受贈を記念して、多数の優品が含まれた高松コレクションの中から厳選した作品を紹介した。

民藝運動の創始者・柳宗悦（1889-1961）は、著書『手仕事の日本』のなかで、「手はただ動くのではなく、いつも奥に心が控えていて、これがものを創らせたり、働きに悦びを与えたり、また道徳を守らせたりする」と語りました。この展覧会を通じて、こうした手による仕事がいかに大切な意味をもつのかを、あらためて省みる機会となればとの思いで開催をした。



観覧料：一般 300 円／高大生 200 円 中学生以下と市内在住の 70 歳以上、豊田市内在住・在学の高校生（ただし、在学していなくても 18 歳以下）、障がい者は無料（要証明）

主 催：豊田市・豊田市民芸館

出品点数：約 150 点

印刷物：ポスター B2 版カラー 500 部 チラシ A4 版両面カラー 13,000 部
入場券 5,000 部（一般券＋招待券）

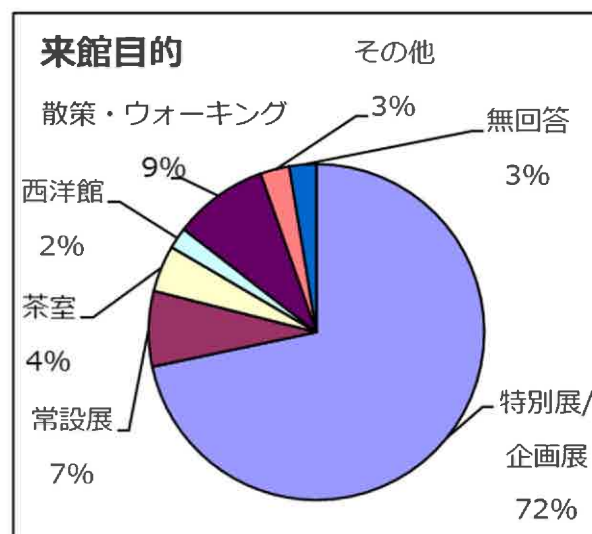
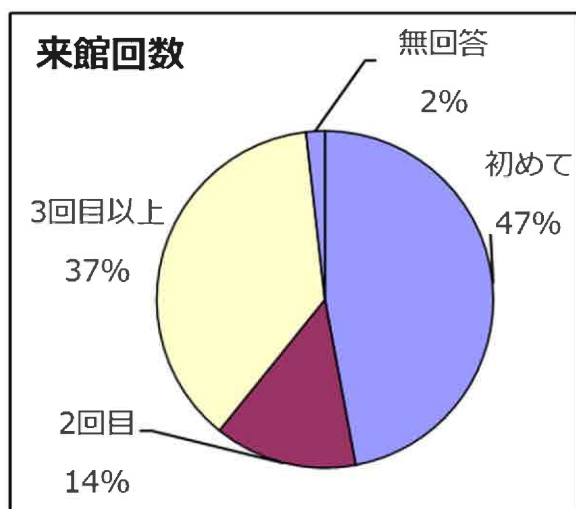
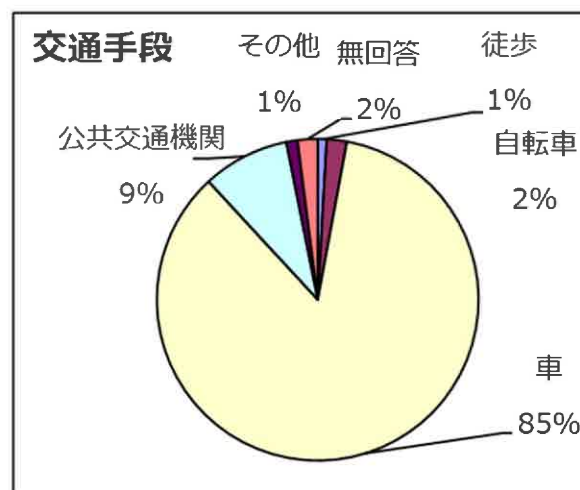
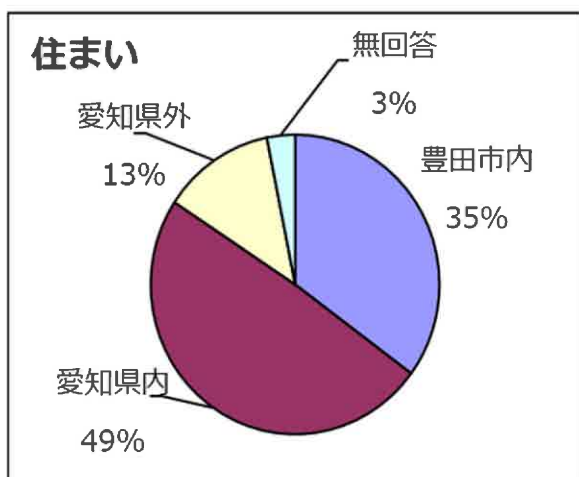
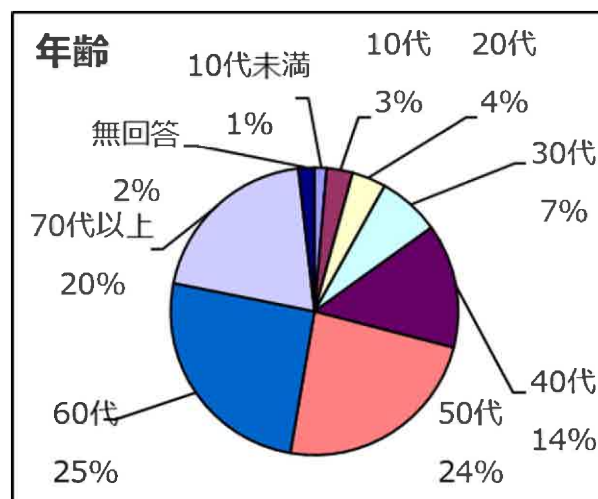
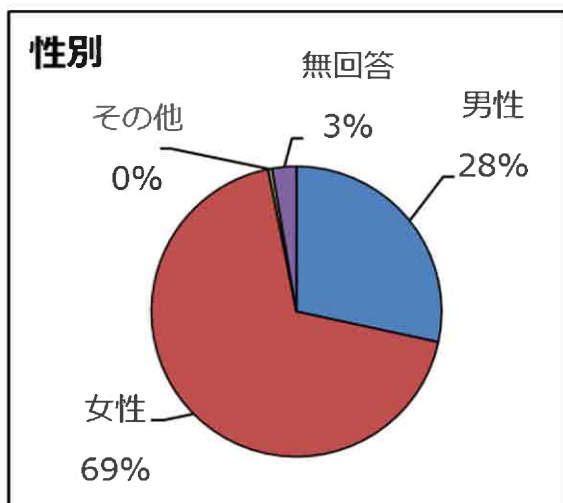
アンケート

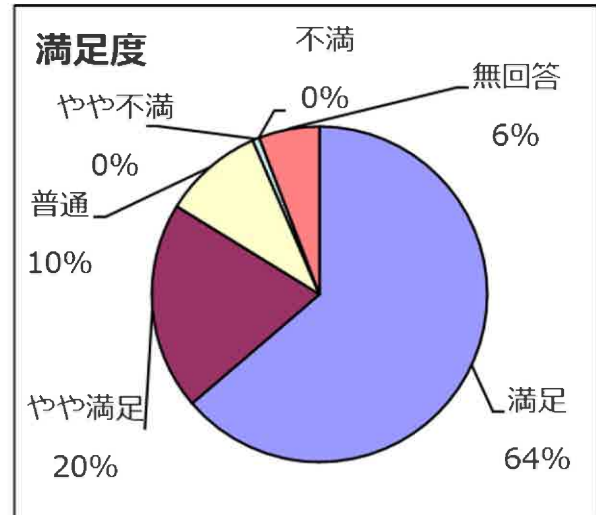
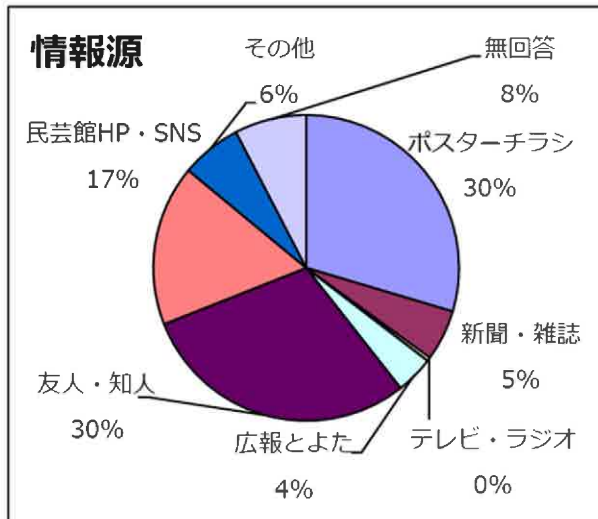
調査日：4 月 9 日～6 月 30 日

調査場所：第 1、第 2 民芸館各エントランスにて紙アンケート記載機を設置し、記入
集計枚数：444 枚

【アンケート結果より】

- ・通常の展覧会より女性の比率が高い
- ・今回から高齢者（70 歳以上）と中高生を除き企画展も有料となったが、入館者の年齢構成に大きな変化はなかった。





ご意見等（抜粋）

- ・色々な方や様々な種類のものが同時に展示されている企画展もよいなあと感じました。ポスター・チラシで写真で見たものを現実で見ると思っていたより大きかったり小さかったり、驚くこともあり、実物を見に来てみないとわからないものだと、いつもおもしろいです。以前に展示されていたものも、別の展示方法だったり、置かれている場所がかわると、作品等の見え方が違ったりして、いつも楽しいです。(50代女性)
- ・個人コレクションの方はもう少し展示品にバリエーションがあった方が良かったかな。そもそもコレクションに偏りがあるのかしら。そばちょことアイヌ関連はとてもよかったです。都筑さんになってから展示方法に工夫が見えます。(40代男性)
- ・手仕事をする事（働くこと）に対する喜びが伝わるような作品ばかりでした。私も自分の仕事に対して同じような姿勢で取り組みたいと思いました。(40代女性)
- ・江戸時代の瀬戸焼にも驚いたが、アイヌの衣装が最高にカッコよかった。そもそも民芸館が初めてだったが、とても素敵な場所で驚きました。四季を楽しみにまた来ます。(40代男性)
- ・キャプションの専門用語の意味がわからないので、もう少し説明があるとありがたいなあと感じましたが、自分はスマホで検索できたのでシンプルなキャプションの方がかえって見やすいのかなと思いました。(40代女性)
- ・作品の材料や作成の手順など少し説明があるとわかりやすいかなと思いました。(60代女性)
- ・作品数がもっと多いと見応えも増したと思う。少しもの足りない感じ。(60代男性)
- ・静かなところが好きです。企画展焼き物がいつも多い気がします。いろいろなものが見たいです。(60代女性)

第39回 特別展「或る賞鑑家の眼－大久保裕司の蒐集品」

令和6年7月13日（土）～9月23日（月）

66日間（会場：第1、第2民芸館）

観覧者数 2,439人（1日平均37人）

【展示概要】

古美術・骨董を通じて、青山二郎氏、秦秀雄氏、白洲正子氏等の先達と実際に相見えた数少ない賞鑑家、故大久保裕司氏。その蒐集品は、日本の古代から近代までの陶磁器、ガラス、木工、金工、民間仏や小道具、朝鮮時代の諸工芸品から西洋アンティークまで幅広い内容で形成されている。この具眼の士が心のままに求め、その元に集まった骨董の品々には、見過ごすことのできない美しさと魅力が宿っている。

大久保氏は壺なら壺、猪口なら猪口というように、順を追ってものを集め、それを並べたり、研究したりする蒐集家ではなかった。歴史や思想には基本的に全く興味がなく、ものを理解するのに必要なのは感性であり、知識などは百害あって一利なしと常々言っていたと伝えられている。

今回展示されたものたちは、大久保氏の眼前に顕れ立ち、彼の心奥を強く揺らせたものたちである。大久保裕司氏という一人の賞鑑家が、洋の東西を問わず、飛鳥・白鳳時代から近代に至るまで、自らの感性の赴くままに求めた蒐集品の数々を紹介した。



観覧料：一般 500 円 高大生 300 円 中学生以下と市内在住の 70 歳以上、豊田市内在住・在学の高校生（ただし、在学していなくても 18 歳以下）、障がい者は無料（要証明）

主催：豊田市・豊田市民芸館

共催：中日新聞社

出品点数：約 250 点

印刷物：ポスター B2 版カラー：800 部、チラシ A4 版両面カラー：25,000 部

関連企画：

・ギャラリートーク（展示解説）

講師：椎名 直行氏（美術協会純展理事）

日時：8 月 11 日（土）午後 2 時－午後 3 時

定員：先着 30 名 参加者：30 名

会場：第 1 民芸館

聴講無料（ただし当日の観覧券提示必要）

アンケート

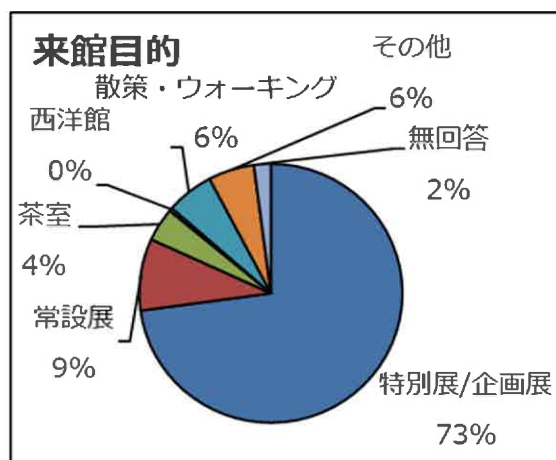
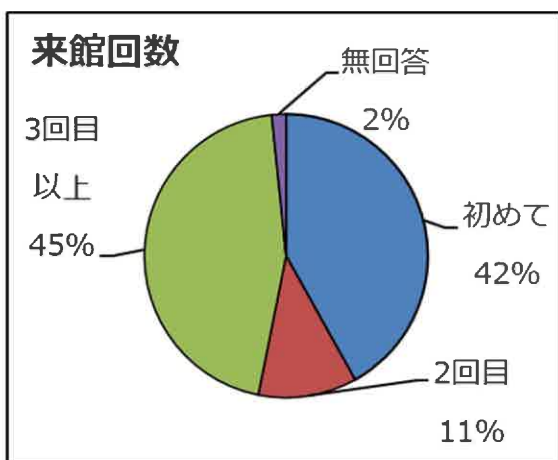
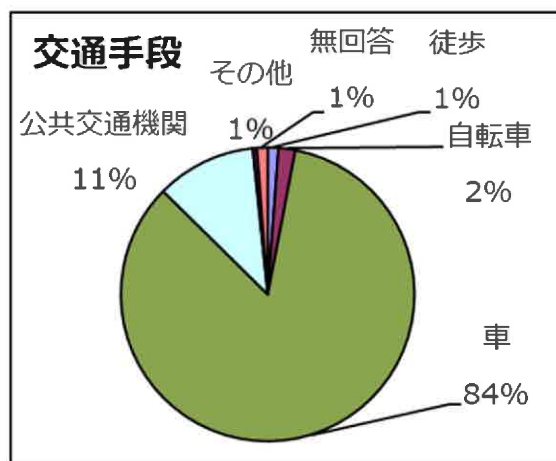
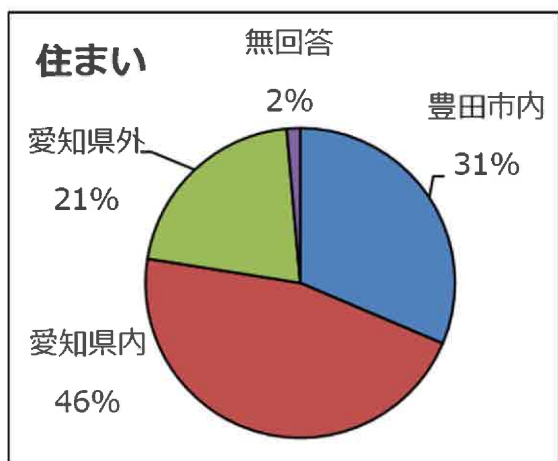
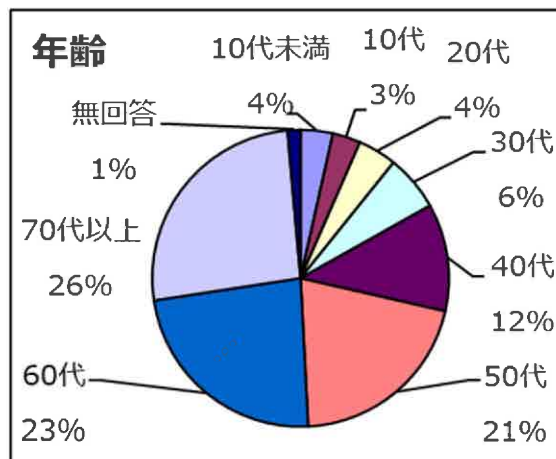
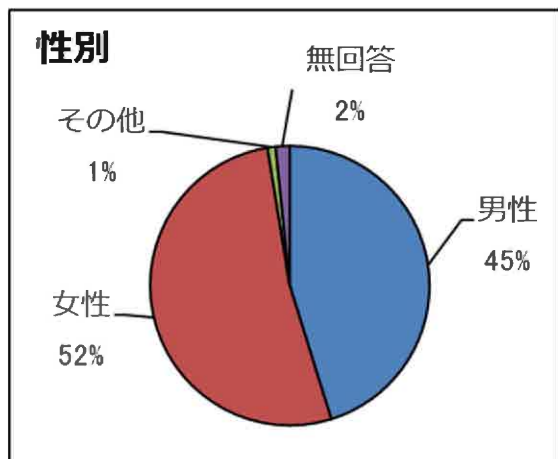
調査日：7 月 13 日～9 月 23 日

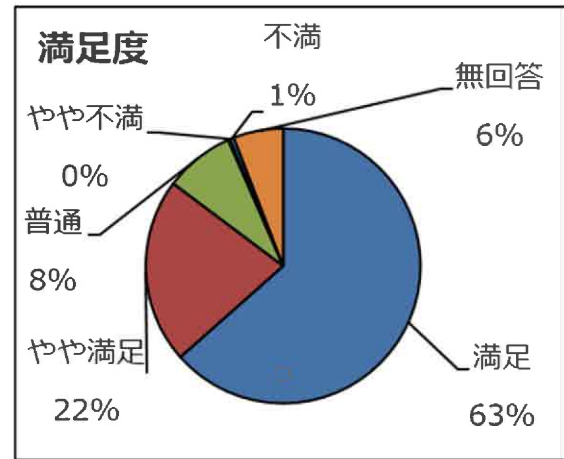
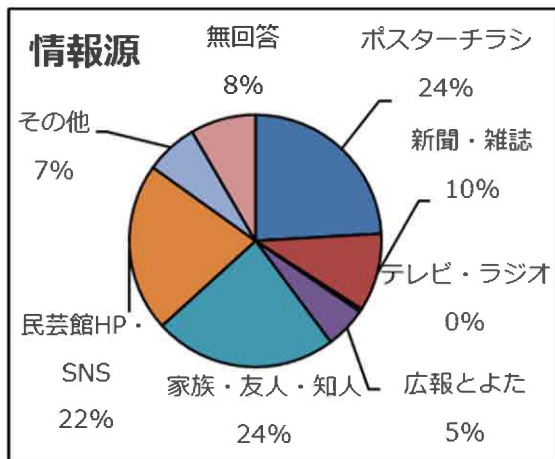
調査場所：第 1、第 2 民芸館各エントランスにて紙アンケート記載機を設置し、記入

集計枚数：427 枚

【アンケート結果より】

- ・ 男性来館者の割合が高い。
- ・ 情報源を「民芸館 HP・SNS」と回答する人の割合が多くなっている。
- ・ 県外からの来館者の割合も多くなっている。





ご意見等（抜粋）

- ・とても良い展示でした。一人の蒐集家の眼をも感じます。出品物に多少説明が加われば、尚、理解できるものもありました。朝鮮時代とあるのは時代としては、不明ということですか？新羅・高句麗・李朝等で時代を示して頂けると更に理解できます。（日本陶器との対象もです）（無回答）
- ・他の美術館では開催されない内容。民芸館だからの内容。愉しく見させていただきました。（70 歳以上男性）
- ・テーマごとの1つ1つの展示も良いが、今回のように1人のコレクションを見ると集めてコレクターの思想が伝わり、とてもとても良い展示であったと思います。「玉虫が」がとても美しかったです。（40 代男性）
- ・たんなる古物好きが収集したガラクタに500円払ったかのようだ。展示されたもののひとつひとつの意味や、彼が果たした役割や収集に至った審美眼を知りたかった。
美は己の内にあるものなら、ガラクタにしか見えない私自身が残念なのだろう。でもやはり、ガラクタにしか見えない。（50 代男性）
- ・器だけより、その器を使っている様子がわかって良いですね。写真があって良かった。たまに、料理がのっている様子もあるといいです。器がキンつぎで価値（値打ち）があがるかなと感じました。（50 代男性）
- ・大久保さんがどんな人物かもう少し細かく詳しく知りたかった。「審美眼」についてどんなこだわりなのか？！感性についてどんなとくちょうがあるのか、みきわめようと追って見てきました。（60 代男性）
- ・豊田市美術館と博物館と民芸館のめぐるバス又はチケットを希望します。民芸館は特に良い作品をもっと多くの方々に見ていただきたいと思います。（60 代女性）

第 40 回 特別展 「アイヌの美しき手仕事」

令和 6 年 10 月 12 日（土）～令和 6 年 12 月 15 日（日）

58 日間（会場：第 1、第 2 民芸館）

観覧者数 5,297 人（1 日平均 91 人）

【展示概要】

日本民藝館創設者の柳宗悦（1889-1961）は、アイヌ民族の工芸文化に早くから着目し、1941 年には美術館での最初のアイヌ工芸展となる「アイヌ工芸文化展」を日本民藝館で開催した。その際、染色家・芹沢銈介（1895-1984）は、同展の作品選品や展示を任されており、自身もアイヌの手仕事を高く評価し蒐集した。

本展は、令和 2 年度に東京都・駒場の日本民藝館で開催された展覧会を再構成したもので、日本民藝館所蔵の柳のアイヌコレクションと、静岡市立芹沢銈介美術館所蔵の芹沢のアイヌコレクションを紹介し、併せて「アイヌを最上の姿で示した展覧であった」と柳が評した 1941 年の展示を一部再現したものである。また、近年当館と日本民藝館に寄贈された、故・高松静男氏による蒐集品も紹介した。

オヒョウやイラクサなどの靱皮繊維で織られた衣裳、本州から渡った古い木綿に切伏や刺繍を施した衣裳、そして幾何学文様が魅力的な刀掛け帯、アイヌ玉の首飾り、儀礼の際に用いられる木製のイクパスイなど、アイヌの手仕事には細部にまで豊かな想像力や深い精神性、そして卓越した造形力がみなぎっている。柳がアイヌの工芸から受けた「真実なものへの強い感銘」を本展を通して共有し、民族の多様性を尊重する社会へとつなぐことができればとの思いを込めて紹介した。



観覧料：一般 800 円／高大生 600 円 中学生以下と市内在住の 70 歳以上、豊田市内在住・在学の高校生（ただし、在学していなくても 18 歳以下）、障がい者は無料（要証明）

主 催：豊田市・豊田市民芸館

共 催：中日新聞社

後 援：公益財団法人アイヌ民族文化財団

出品協力：日本民藝館、静岡市立芹沢銈介美術館

出品点数：約 200 点

印刷物：ポスター B2 版カラー：800 部

事前チラシ A4 版：5,000 部（豊田市美術館・豊田市博物館を主に配付）

チラシ A3 版二つ折り両面カラー：30,000 部（リーフレット要素含む）

入場券：8,000 部

販売品：書籍『アート・ビギナーズ・コレクション もっと知りたい アイヌの美術』（株式会社東京美術）販売数 120 冊

アイヌ民具（首飾り、丸盆、コースターなど） 売上高 981,200 円

同時開催：「アイヌの生活 - 高松コレクションを中心に -」（民芸館ギャラリー（第 3 民芸館））

同期間、鉾や矢筒などの漁猟道具や織道具など、アイヌの人々が生活で使用した道具について高松コレクションを中心に紹介（観覧無料）

関連企画：

・記念講演会

日 時：①11月23日（土）午後2時～3時30分

②12月7日（土）午後2時～3時30分

演 題：①「アイヌ工芸ことはじめ」 ②「アイヌと民藝」

2回目は北海道大学アイヌ・先住民研究センター巡回講座として共催

講 師：山崎幸治氏（北海道大学アイヌ・先住民研究センター センター長）

会 場：豊田市民芸館（第3民芸館）

聴 講：無料 ただし会期中の観覧券の提示必要

参加者：①70人 ②102人

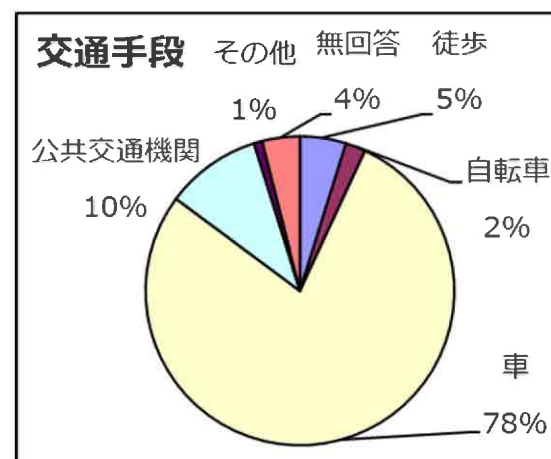
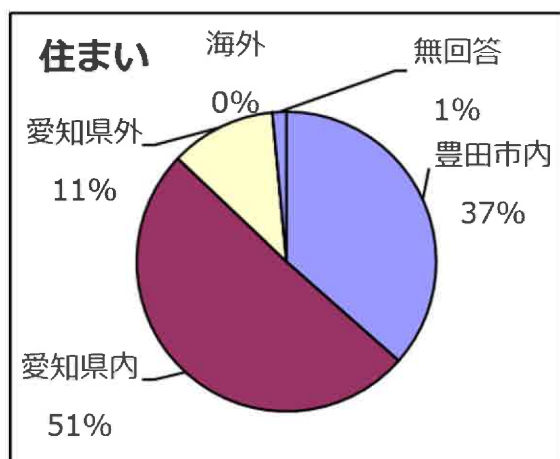
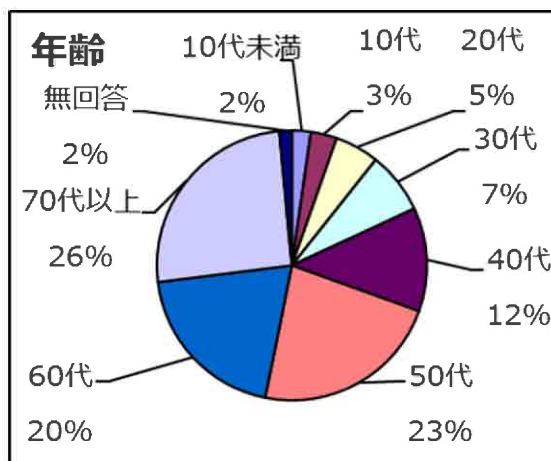
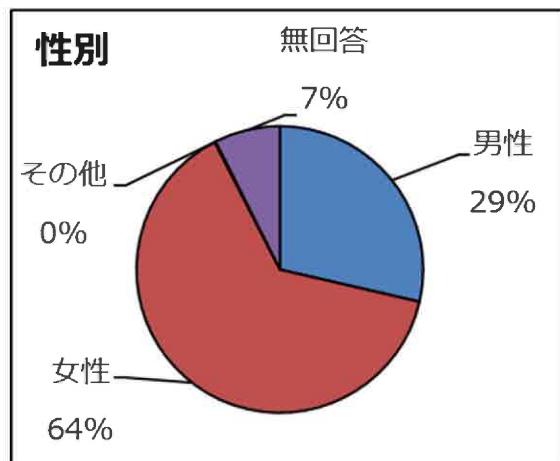
アンケート

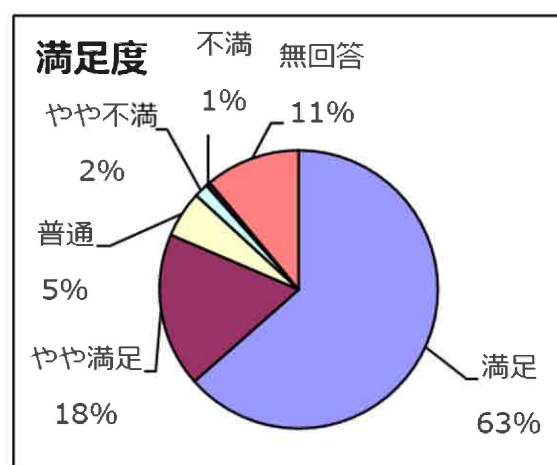
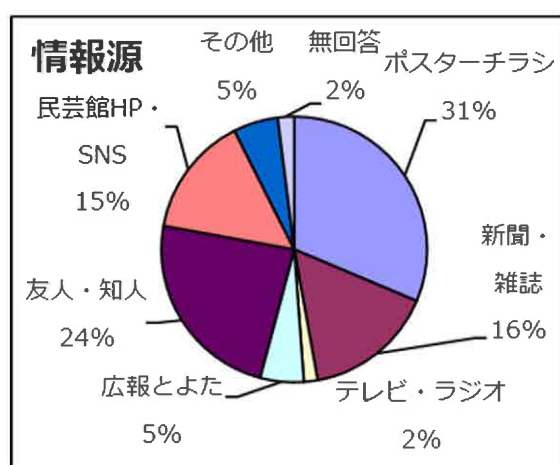
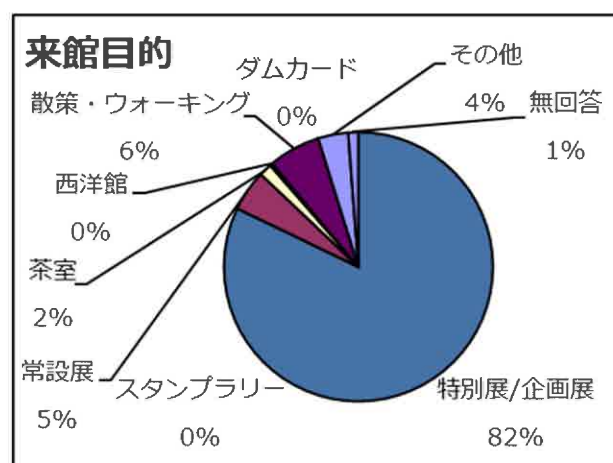
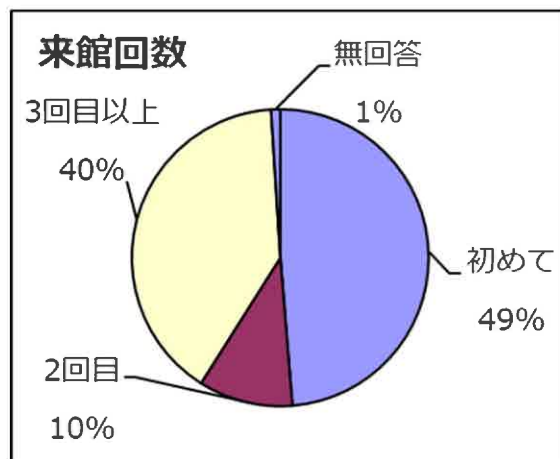
調査日：10月12日～12月15日

調査場所：第1、第2民芸館各エントランスにて紙アンケート記載機を設置し、記入
集計枚数：793枚

【アンケート結果より】

- ・年齢割合で10代未満～50代までの入館者52%と半数を超えており（昨年度の河井寛次郎展は34%）、比較的若い年代も足を運んでいる。
- ・会期に紅葉の見ごろの時期が入っているが、来館目的は「散策・ウォーキング」の割合は少なく、「スタンプラリー」や「ダムカード」のついでに特別展を見ようという人はいなかった。
- ・中日新聞社と共催したため、情報源に「新聞・雑誌」の割合が多くなっている。





ご意見等（抜粋）

- ・私は初めてアイヌの展示を見ました。どれもすばらしい、あまりくわしく知らない文化にふれることができてよかった。(70 歳以上女性)
- ・初めて来館しましたが 建築が美しく、展示台など細部までこだわりがあり、落ち着いた時間を過ごすことが出来ました。アイヌの人々の暮らしは丁寧で美しいという事を知ることができ嬉しいです。(20 代女性)
- ・織物や刺しゅう、木彫などの細工が素晴らしかった。文様の地域性がわかるような展示だとなおよかった。(50 代女性)
- ・展示の説明がないのでよくわからなかったものもあった。けどそれはそれで自分で考えることもできたので良かったかもしれない。(10 代男性)
- ・着物？は前からも見たいよね。あと着てみるとどんな感じなのかマネキンに着せてみてほしい。アイヌの民芸品？高くて手が出ませんでした。(10 代未満女性)
- ・展示物はすばらしかったが、それに対する説明が欲しいです。例えば作られた年代、背景どのような時に用いられていたのか。素材（一つだけイラクサがあって、その素材のちがいがおもしろかった）男の人が着ていたのか？女の人が？形の違いはなぜ？婚礼衣装？これ作った人はどんな思いで作ったのだろう・・・etc と色々な疑問が出ました。おうちに帰って調べてみようと思えたのはよい事かもしれませんが、観ている時に知れたらな～とも思いました。(70 歳以上男性)

年間パスポート販売実績（12 月末時点）

・民芸館年間パスポート

価格：1,500 円／1 枚（1 名様）

4 月 2 日から販売開始

購入日から翌年の発行日の属する月の末日まで有効

※利用はご本人に限り可

特典：

豊田市美術館・・・展覧会観覧料を団体料金に割引（常設展を除く）

豊田市博物館・・・展覧会観覧料を団体料金に割引（常設展を除く）

日本民藝館・・・入館料を団体料金に割引

瀬戸・ものづくりと暮らしのミュージアム 瀬戸民藝館

・・・入館料 100 円割引

販売実績：71 枚



・3 館共通年間パスポート

民芸館、美術館、博物館の 3 館で利用できる

共通年間パスポート

価格：6,000 円／1 枚（1 名様）

10 月 1 日から販売開始

購入日から翌年の発行日の属する月の末日まで有効

※利用はご本人に限り可

特典：初回入会特典（令和 7 年 5 月 18 日まで）として、各館で 1 回のみ
使用できる招待券をプレゼント（民芸館は 2 枚）

同伴者の観覧料を団体料金に割引

美術館レストランでの小菓子プレゼントやミュージアムショップでの割引

博物館カフェで飲み物 100 円割引 ほか

販売実績：41 枚（民芸館窓口での販売数）



民芸館ギャラリー（第3民芸館）での展示

A 展示室

民芸館の収蔵品の中から季節感のあるものなどを定期的に展示（観覧無料）

令和6年度展示実績

展示期間	展示内容
4月10日～6月11日	絞り染めのこいのぼり、鯉の模様の夜具地、大浜土人形（武者人形）など6点を展示
6月12日～10月3日	朝鮮民画2点、染付のやきもの4点を展示
10月4日～12月15日	岡村吉右衛門の型染5点を展示
12月19日～	しめ縄と漆器5点を展示



岡村吉右衛門の型染

B 展示室

民芸館主催の各種講座で受講者が作成した作品を展示する民芸館講座作品展や、第1・第2民芸館での展覧会に関連した収蔵品を中心とした企画展示、その年の干支にまつわる郷土玩具展などを実施。（観覧無料）

令和6年度開催実績

会 期	展覧会名	概要
2月20日～5月19日	令和5年度民芸館講座作品展	令和5年度に民芸館主催の各種講座で受講者が作った作品を展示
7月13日～7月21日	紙造形作品展 ～紙のかたち～	一般利用（2,500円/日） 利用者は、森のアート展出展経験あり
9月7日～9月8日	一閑張り作品展 篠田美智子とその生徒たち	一般利用（2,500円/日）
9月14日～9月29日	第9回 伝承拳母木綿展	「拳母木綿手紡ぎ手織り講座」の受講生及び講師、拳母木綿伝承会会員が制作した手紡ぎ糸、手紡ぎ手織布などを展示（2年に1回開催）
10月12日 12月15日	アイヌの生活 高松コレクションを中心に	特別展 「アイヌの美しき手仕事」に合わせて実施 アイヌの人々が生活で使用した道具について民芸館が所蔵する高松コレクションを中心に紹介
12月21日～	郷土玩具展 干支と巳	令和7年の干支である「巳」をモチーフにした張子や土人形、土鈴など全国の郷土玩具約150点を展示

【本多記念民芸の森】

森の本多コレクション展「本多静雄の眼」

4月4日（木）～6月16日（日）
63日間

【展示概要】

豊田市名誉市民で実業家、日本有数の古陶磁研究家として知られる故・本多静雄氏（1898—1999）が蒐集し豊田市に寄贈した資料（本多コレクション）を展示するもの。

本展では、やきものや漆器などの国内外の民芸品を中心に紹介した。

観覧料：無料

主催：豊田市・豊田市本多記念民芸の森 出品点数：約 15 点

観覧者数：927 人 印刷物：チラシ A4 版両面カラー：2,500 部



森のアート展 Vol.21「ゆきて たずねる こえ 植村宏木展」

7月16日（火）～9月28日（土）
67日間

【展示概要】

植村宏木（1990 年北海道生まれ）は、いわゆる実用のための「工芸」ではない地平から立ち上がる独自の表現を探っている作家である。

ガラスを表現の主体としながら、時間や記憶の積み重なりによって生まれてくる、「場所」や「モノ」がもつ気配をすくい取るような作品を手がけている。

本展では、民芸の森の屋内外の空間に、ガラスや陶などを素材に用いた 12 点の作品を展示。美術と工芸それぞれの領域を横断する新たなビジョンを提示した。

観覧料：無料

主催：豊田市・豊田市本多記念民芸の森 出品点数：12 点

観覧者数：1,866 人 印刷物：チラシ A4 版両面カラー：2,500 部



関連企画：

- ・ワークショップ（民芸の森の敷地内の植物や石碑、建物などの文様を粘土に移し取る。）
日時：8月4日（日）午前 10 時～ 参加者：10 人 作品数：106 点
- ・ギャラリートーク
日時：8月4日（日）午後 2 時～ 参加者：16 人

森の本多コレクション展「本多静雄と外国の蒐集 楽しい動物のもよう」

10月5日（土）～12月15日（日）
64日間

【展示概要】

本多コレクションの中から外国の蒐集資料のうち動物を描いた染織品や動物をかたどったやきものなどの作品を紹介した。

観覧料：無料

主催：豊田市・豊田市本多記念民芸の森 出品点数：約 20 点

観覧者数：1043 人 印刷物：チラシ A4 版両面カラー：2,500 部



3 普及推進事業

(1) 講座開催事業

【民芸館】

民芸館講座実績（累計）（12月末時点）

・陶芸講座		
穴窯講座	3回	46人
ガス窯講座	24回	279人
・挙母木綿講座		
初級	12回	71人
中級	19回	116人
上級	29回	176人
・染織講座		
初級	10回	99人
上級	10回	84人
・絞り染め・藍染め講座		
化学染料染め	10回	94人
藍染め	10回	76人
・ガラス工芸講座	48回	323人
・民芸体験・体験講座	58回	768人
・団体利用	16団体	275人
合 計		2,407人

【本多記念民芸の森】

体験講座

- ・こま犬を作って飾ろう～民芸の森の土で色付けを楽しむ～（有料）体験者：25人

体験コーナー実績

・ 期間・数量限定体験（有料）		
貼り絵でミニ鯉のぼりを作ろう（無料）	体験数	49 個
ガラス風鈴に和紙で絵付けをしよう	体験数	150 個
紅葉・竹と和紙で作るミニランプシェード	体験数	28 個
森の木の実でリース作り	体験数	35 個
・ 通年実施		
季節の貼り絵タペストリー（有料）	体験数	184 個
貼り絵アート（無料）	体験数	9 個
合 計		455 個

(2) イベント・地域連携事業

【民芸館・本多記念民芸の森合同】

- ・平戸橋桜まつり 2024 4月6日(土)
来場者：7,000人(民芸館：1,816人 民芸の森：915人)
- ・新緑ウィーク 4月20日(土)～5月6日(日)
ウォーキングマップを持って各施設を巡りスタンプを集める。(他ウィークも同様)
参加者：77人(民芸館：11人 民芸の森：53人 いこいの広場：13人)
- ・民芸の森/民芸館/いこいの広場クイズ 2024 7月13日(土)～8月25日(日)
クイズを通じて幅広い年齢層に民芸の森と民芸館、いこいの広場を周知する。
参加者：201人(民芸館：40人 民芸の森：111人 いこいの広場：50人)
- ・とよたのミュージアムなぞ解きラリー【10館合同事業】 7月20日(土)～9月23日(月)
オープンした博物館をはじめ豊田の歴史的、文化財的施設を訪れ、「なぞ解き」という形で魅力を楽しく学びながらスタンプを集める。
5館賞交換人数 民芸館：46人 民芸の森：80人
- ・紅葉ウィーク 11月9日(土)～11月24日(日)
参加者：70人(民芸館：29人 民芸の森：33人 いこいの広場：8人)
- ・コーヒー50円割引券配布/利用 11月9日(土)～12月8日(日)
例年開催の「勘八峡紅葉ウォーキング」休止の代替案として紅葉ウィーク開催に合わせて配布。(配布数は紅葉ウィークと同じ)
割引券利用数：42人(民芸館：30人・民芸の森：12人)

【民芸館】

- ・愛知やきものヒストリー2024 7月13日～9月8日
県内20の資料館や博物館などとの共同企画。
毎年テーマに合わせた展示とシールラリーを実施。
令和6年のテーマは「家とやきもの」
参加者(シール配付数)：169人



【本多記念民芸の森】

- ・初夏、森の手ざわり 2024 5月19日(日)
NPO法人民芸の森倶楽部が企画運営を担当し開催する季節ごとの市民交流イベント。
幅広い市民に本多静雄氏や民芸について、見て知り体験する機会を設けるもの。狂言舞台での各種演目、飲食、民芸品の出店等実施。
来場者：500人
- ・観月会 2024 10月19日(土)
上記、森の手ざわりと同様のイベント。毎年10月の満月に近い日程に実施。
来場者：550人

(3) 学校団体等の受け入れ

【民芸館】

日にち	団体名等	内容	人数
7月3日	みわさとネット	特別展	21
7月24日	逢妻中学校美術部	ガス窯作陶（出張講座）	17
7月30日	コパンスタージュ	そば猪口	10
7月31日	前林中学校美術部	ガス窯作陶（出張講座）	15
8月1日	コパンスタージュ	そば猪口	10
8月21日	愛のさと梅坪	ガス窯作陶、そば猪口	6
8月24日	猿投台中学校美術部	絞り染め、そば猪口	16
9月11日	知立市民生委員会	特別展	35
9月26日	菱の実ウォーキング同好会	特別展+昼食	60
10月6日	あさひ第1子ども会	ガス窯作陶	20
10月13日	ラフ（発達障害の親子会）	ガス窯作陶	10
10月18日	東郷町教育委員会	特別展観覧	9
10月22日	拳母ルーテル幼稚園	施設利用	63
10月30日	豊田シニアアカデミー	特別展観覧	45
11月4日	さがみ豊田高橋店	施設利用	25
11月14日	南知多町文化財保護委員会郷土研究会	特別展観覧	8
11月22日	おおきなくすの木	呈茶利用	14
12月8日	野見山子ども会	ガス窯作陶+昼食	28
12月10日	いばばらこども園	特別展+昼食	32
12月11日	培本塾	特別展+昼食	30
12月18日	青木小学校	施設見学	10
合 計			484

【本多記念民芸の森】

日にち	団体名等	内容	人数
5月6日(月)	高橋スポーツクラブ	施設見学	38
9月26日(木)	ウォーキング同好会 菱の実会	通過・施設利用	35
10月6日(日)	ガールスカウト第90団	見学・体験	11
10月10日(木)	障がい者施設 「暖」	見学・体験	4
10月13日(日)	平戸橋自治区	見学・施設ガイド	12
10月24日(木)	青木幼稚園 年長組	遠足 施設利用・体験	60
11月8日(金)	青木小学校 2年生①	町探検 見学	82
11月21日(木)	シニアアカデミー	猿投古窯について見学	17
11月26日(火)	NPO 法人「しんあい」	見学・体験	5
11月27日(水)	青木小学校 2年生②	町探検 見学	45
12月11日(水)	公益財団法人培本塾里山を歩く会	施設見学	22
12月14日(土)	放課後デイサービス COPAIN(コパン)スタージュ	見学・体験	8
合 計			339

(4) マスコミ等掲載実績

【民芸館】

テレビ（ひまわりネットワーク含む）	10 回	新聞（広告欄含む）	21 回
雑誌（フリーペーパー含む）	25 回	WEB	30 回
ラジオ（FMとよた）	2 回		

【本多記念民芸の森】

テレビ（ひまわりネットワーク）	4 回	新聞（地域紙）	7 回
ラジオ（FMとよた）	1 回		

(5) 刊行物等発行

【民芸館】

- ・機関紙「民芸館だより」第37号（8月）

【本多記念民芸の森】

- ・機関紙 「森暦」
夏号 No.32（6月15日）、秋号 No.33（9月15日）、冬号 No.34（12月15日）

4 施設維持管理事業

(1) 修繕事業

【民芸館】

- ・ 民芸館道路案内看板修繕
本多記念館閉鎖、移転等に伴う板面変更を実施。



【本多記念民芸の森】

- ・ 敷地内の傾斜した木製電柱の入替え（金属製に更新）

(2) 整備事業

【民芸館】

- ・ 第1、第2 民芸館展示施設内防犯カメラ設置
録画機能のない監視用カメラのみだったため、
屋外を常時監視、録画している既存の防犯カメラ
システムに新たに施設内用のカメラを追加設置した。
(第1 民芸館：4台 第2 民芸館：3台)



- ・ 大型展示ケースの新調

第2 民芸館で 35 年間使用してきた移動式の展示ケースの老朽化、破損等が著しくなってきたため新たなケースを新調した。

岡山県倉敷市に工房を構える「松本家具研究所」に製作を依頼し、無垢材を用いて拭き漆仕上げを施した仕様のものを4台購入。1月の展覧会から使用する。

